

イカナゴ情報 No.2 (2025 年 6 月)



令和 7 年 6 月 25 日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部（担当：佐藤） Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により 6～9 月に漁獲されるイカナゴ類¹⁾の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

漁獲物調査：2025 年 6 月は体長 18 cm 前後が主体

6 月の漁獲物標本を測定したところ、5 月の調査船トロール調査による組成（イカナゴ情報 No.1 (2025 年 5 月)）とは異なり、体長 18 cm 前後の小型個体が主体となっていました（図 1）。過去には小型個体の割合が増加した年に漁獲が増える傾向にありましたが、漁獲が低迷した 2021 年以降は小型個体の割合が増えても漁獲量は増加せず、来遊量自体が少ない年が続いています。

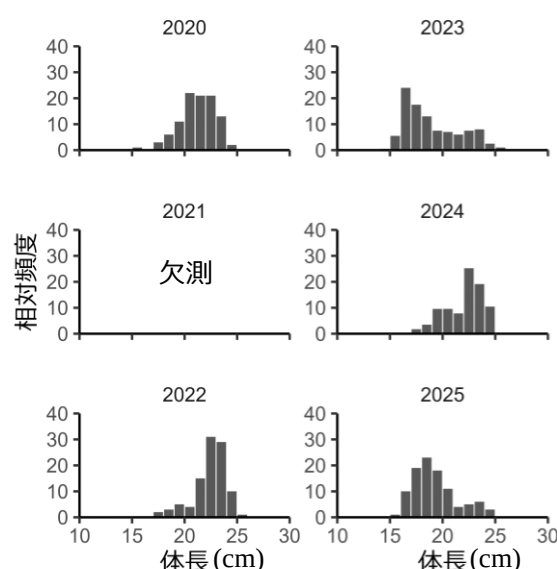


図 1. 稚内で水揚げされたイカナゴ類の 6 月の体長組成.

海洋観測：沿岸からオッター漁場・かけまわし漁場にかけて昨年よりも高めの水温

宗谷海峡東方海域において 6 月 16～18 日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を実施しました（図 2）。観測ラインの水温断面図をみると、ライン A では O15 から IS01（水深 30～40 m）の海域での水温は 10～12℃前後と昨年よりも低いですが、オッタートロールの主漁場となる IS02 から IS04（水深 50～80 m）の海域での、底層水温は 8℃前後と昨年よりもやや高くなっていました。ライン B での沿岸域の水温は 12℃前後、かけまわしの主漁場にあたる IS11 から IS09（水深 40～60 m）の海域は 7～11℃となっており、ライン A と同じく、沿岸は冷たく漁場付近の水温はやや高めとなっていました。

¹⁾ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの 3 種が含まれる（Orr *et al.*, 2015）

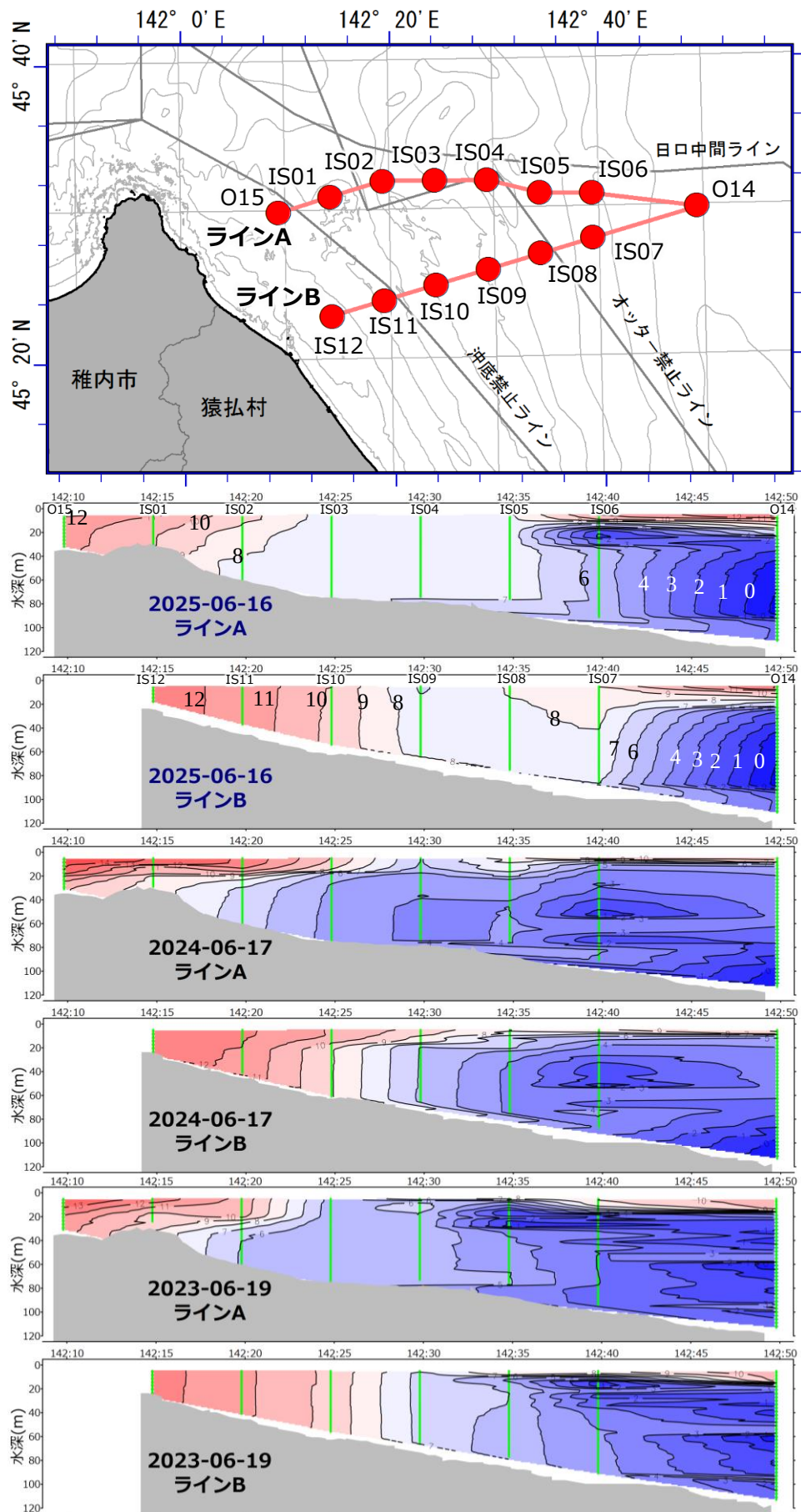


図 2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と最近 3 年の水温断面図.

魚探観測：イカナゴ類と見られる魚群反応は確認できず(図 3)

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました。ライン A では水深 75m 付近に、イカナゴ類とよく似た形状の魚群反応を確認しました。しかし周波数毎の反応の強さを見ると、いずれの魚群も低周波（38 kHz）の反応が高周波（120 kHz）よりも強く、イカナゴ類とは別の魚群の反応ではないかと考えられます。ライン B ではそもそもイカナゴ類と思われる魚群反応は見られませんでした。そのため今回の調査範囲ではイカナゴ類とみられる魚群反応は確認できませんでした。

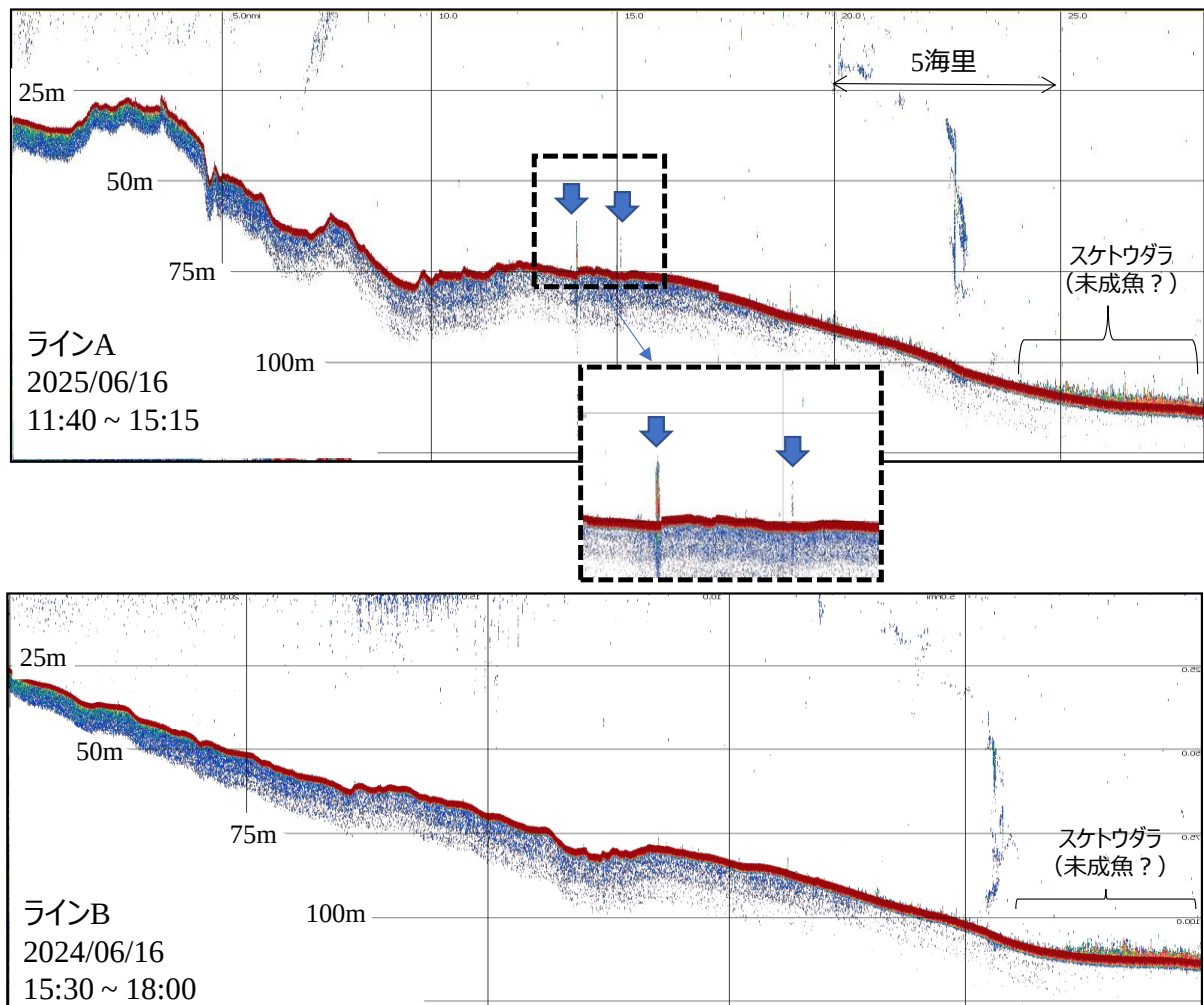


図 3. 観測ライン A～B における魚探反応(120kHz). 下図は上図中黒点線枠内の拡大図. 図中の青矢印はイカナゴ類と反応の形状はよく似るが低周波の反応が強い魚群反応を示す。